

大粒大豆「里のほほえみ」の品種特性

福島県農業総合センター 作物園芸部畑作科

部門名 普通畑作物—大豆—品種

担当者 安田裕基子・古和田壘

I 新技術の解説

1 要旨

東北農業試験場（現、東北農業研究センター）によって育成された大粒大豆「里のほほえみ」は、「タチナガハ」よりタンパク含量が高く、加工適性に優れる。

- (1) 「里のほほえみ」は、ダイズモザイクウイルス病抵抗性の「東北129号」を母、極大粒系統の「刈交0264MYF₆」を父とした人工交配から育成された系統である。
- (2) 「里のほほえみ」の特性(表、図)
 - ア 早晚性は「タチナガハ」並みの「中生の晩」である。
 - イ 難裂莢性で、最下着莢高が「タチナガハ」より高く、コンバイン収穫適性が高い。
 - ウ 子実重は「タチナガハ」とほぼ同等で、百粒重が重い。
 - エ 「タチナガハ」よりタンパク含量が高く、加工適性が高い。

2 期待される効果

本品種の普及により、県内平坦部で生産される大豆の加工適性の向上及び生産の安定化が期待できる。

3 適用範囲

県内平坦部

4 普及上の留意点

- (1) ベと病に感受性があるため、防除を徹底する。
- (2) タチナガハと同様、ダイズシストセンチュウに弱いいため、過度の連作やセンチュウ害の発生履歴のあるほ場での栽培を避ける。

II 具体的データ等

表 里のほほえみの特性一覧

品種名	里のほほえみ		
組み合わせ	東北129号 × 刈交0264MYF ₆		
特性	長所	1大粒 2最下着莢高が高い 3高タンパク	
	短所	1ダイズシストセンチュウ抵抗性が弱	
	試験年次	2005～2010年及び2014～2016年	
調査場所	福島県農業総合センター(郡山市)、福島市、国見町、郡山市、三春町、白河市、矢吹町、泉崎村、喜多方市、南相馬市、新地町、いわき市		
品種名	里のほほえみ	タチナガハ	
開花期	(月日) 8.01	7.31	
成熟期	(月日) 10.23	10.23	
主莖長	(cm) 75	73	
最下着莢高	(cm) 23.0	20.6	
稔実莢数	(/本) 58.6	68.1	
子実重	(kg/a) 31.9	32.3	
収量比率	99	100	
百粒重	(g) 42.3	36.6	
ウイルス病抵抗性	強	中	
シストセンチュウ抵抗性	弱	極弱	
裂莢性	難	難	
障害粒程度	紫斑病	1	1
	褐斑病	0	0
	裂皮	2	1
	虫害	2	2
	しわ	1	1
品質	2	2	
等級	1下	1下	
蛋白含量	(%) 45.9	42.9	

(H17～H22、26奨励品種決定予備調査、H27・28本調査、H28現地調査、JA全農「里のほほえみ」導入実証事業(H27～28)及び育成地のデータ)

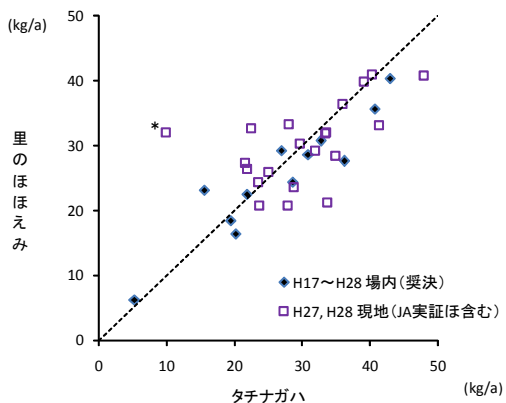


図 「タチナガハ」と「里のほほえみ」の子実重の比較

* …過湿と雑草害によりタチナガハの収量が減少したもの

III その他

1 執筆者

安田裕基子

2 成果を得た課題名

- (1) 研究期間 平成17年度～22年度、平成26年度～28年度
- (2) 研究課題名 大豆奨励品種決定調査

3 主な参考文献・資料

プレスリリース「南東北地方向け大豆新品種『里のほほえみ』」(農研機構、2009年)

http://www.naro.affrc.go.jp/publicity_report/press/laboratory/tarc/013150.html